

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	17-105	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
<p style="text-align: center;">Joint Effect of Alcohol Consumption and Educational Level on Alcohol-related Medical Events: A Danish Register-based Cohort Study.</p> <p style="text-align: center;">アルコール関連疾患におけるアルコール消費と教育レベルの共同効果：デンマーク登録ベースコホート研究</p>		
執筆者		
Kim TJ, Kim JE, Choi YH, Hong SN, Kim YH, Chang DK, et al.		
掲載誌		
Epidemiology. 2017 Nov; 28(6): 872–879. doi: 10.1097/EDE.0000000000000718		
キーワード		PMID
アルコール、教育レベル、アルコール関連疾患、共同効果、デンマーク		28731961
要 旨		
目的：		
<p>欧米ではアルコール関連死亡は社会経済状況がより低いレベルで顕著である。この理由の一つには飲酒状況の違いが挙げられる。しかしながら社会経済レベルにより、アルコール消費の健康被害に対する影響が異なることもその理由に挙げられる。本研究ではアルコール関連健康被害に対するアルコール消費と教育レベル両者の影響を調べた。</p>		
方法：		
<p>1981年から2009年に実施された30歳から70歳までの男女合わせて74,278名が参加したデンマークでの7つの前向きコホート研究を統合した。アルコール摂取はベースライン時に、自己質問紙法を用い調査した。全国登録データより、研究登録1年前時点での最終学歴ならびにアルコール関連疾患による受診や死亡情報を得た。最終学歴とアルコール消費の2つの因子の影響を加算し、その偏差を評価するために、Aalenの加法ハザードモデルを解析に用いた。</p>		
結果：		
<p>経過観察中（1,085,049 人年）、計 1,718 件のアルコール関連疾患を認めた。アルコール摂取量および学歴はそれぞれアルコール関連疾患と関連していたが、アルコール摂取量が多く（女性 21 回/週以上、男性 28 回/週以上）かつ低学歴の群におけるアルコール関連疾患に対する影響は、単独の影響の総計を上回っていた。低学歴－高アルコール摂取の影響により、100,000 人年あたり男性では 289 件(95%CI: 123-457) (P<0.001)、女性では、239 件(95%CI: 90-388) (P<0.001)多くのアルコール関連疾患を認めた。</p>		
結論：		
<p>高学歴群に比して低学歴群では、高アルコール摂取がアルコール関連疾患の発症と関連した。この相互作用は教育レベルによりアルコールの影響が異なること、ならびに教育レベル間での飲酒形式の違いによるものと考えられる。</p>		